

令和4年度に実施した主な事業

市道国府18号線道路改修事業

3,703万円

車道の^{かさ}高上げによる波打ち歩道の解消、側溝蓋の改修、信号柱や電柱の削減・移設・細径化などを行い、安全で快適な歩行空間の確保を行いました。



市立道明寺中学校屋内運動場トイレ改修事業

1,793万円

老朽化したトイレを改修し、明るくきれいで使いやすくなりました。



キャッシュレス決済ポイント還元事業

2億903万円

コロナ禍における物価高騰対策として、消費喚起による市内事業者支援と家計支援を行うため、市内店舗でのキャッシュレス決済に対してポイント還元を行いました。



地域内経済循環促進事業

(買って応援ふじいでら事業)

1億1,002万円

物価高騰が進む中、市民の生活を支援するとともに、消費活動を市内消費へ振り向け地域内経済循環の促進を図りました。

中小企業等物価高騰対策緊急支援金

9,155万円

コロナ禍において、物価高騰等の影響を受けている市内中小企業者の経営の下支えを目的とした支援金を支給しました。

物価高騰による学校給食費無償化

5,445万円

コロナ禍と物価高騰に伴い、苦くなる市民生活の中で、特に食費や養育費などの支出負担が多い子育て世帯に対する支援として、学校給食費の無償化を実施しました。

新生児サポート給付金支給事業

3,316万円

コロナ禍での子育てを支援するため、令和4年4月1日～令和5年4月1日に生まれた新生児を対象に、1人10万円を給付しました。

ふるさとまちづくり 応援寄附金

藤井寺市へたくさんご寄附をいただきありがとうございました。

令和3年度に寄せられた寄附金のうち6,381万円(8,500件)は、令和4年度に以下のとおり使わせていただきました。

令和3年度 寄附された方が寄附金の使い道を8つの事業から選択	使い道の内訳(令和4年度)	
①子育て支援又は教育の推進に関する事業 3,241件 2,436万円	保育所・こども園・幼稚園・小学校・中学校の備品・図書購入	1,582万円
	母子保健推進事業	100万円
	保育所施設管理事業	754万円
②福祉又は医療の充実に関する事業 751件 575万円	ふれあい支援事業	575万円
③観光又は産業の振興に関する事業 403件 298万円	観光振興事業	298万円
④スポーツの振興又は青少年の健全育成に関する事業 136件 97万円	青少年育成推進事業	75万円
	市民総合体育館管理事業	22万円
⑤歴史的又は文化的な遺産の保全に関する事業 321件 241万円	文化財用地管理事業	241万円
⑥都市基盤の充実又は安全なまちづくりに関する事業 234件 170万円	道路環境整備	170万円
	ふるさとまちづくり応援寄附金事業	132万円
⑦まちの魅力PRする事業 181件 132万円	市内水路修繕	1,059万円
	公園施設管理事業	610万円
	公共交通整備検討事業	380万円
	市営火葬場管理事業	310万円
	図書館資料充実事業	49万円
	道路環境整備推進事業	18万円
	文化財用地管理事業	6万円
⑧①から⑦以外で、市長が必要と認める事業 3,233件 2,432万円		

ガバメントクラウドファンディング(GCF) 令和4年度実施分

- 古墳の下に別のお墓!?「赤子塚古墳」の謎にせまるプロジェクト 78件 97万円(6/1~8/31)
- 藤井寺市の公園遊具をリニューアルしたい!プロジェクト 18件 16万円(9/15~11/30)



◀令和4年度決算について詳しくはこちら

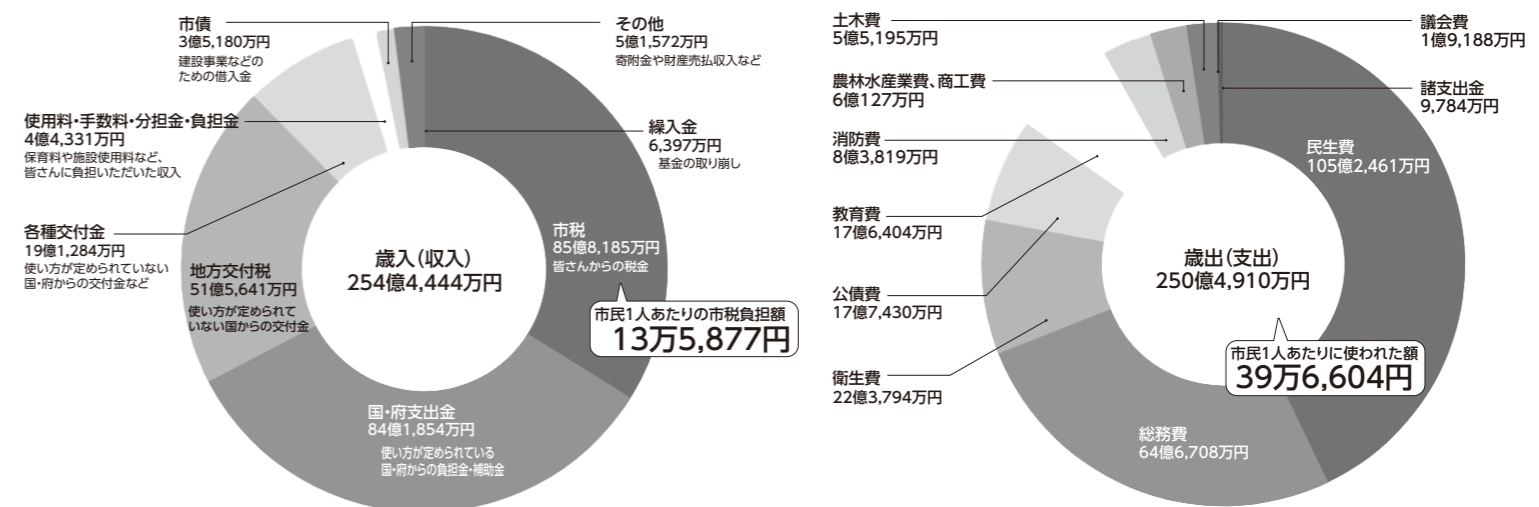
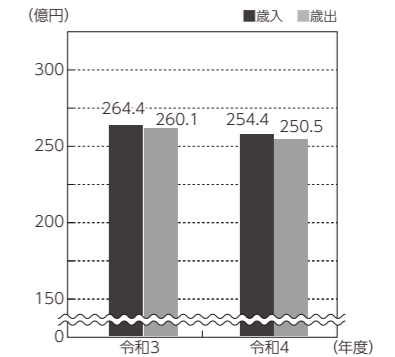
藤井寺市の財政のようす ~令和4年度決算の報告~

問合せ 行財政管理課 財政担当(5階⑤番窓口) ☎939・1014

令和4年度一般会計決算は、令和3年度に引き続き財政調整基金(貯金)を取り崩すことなく、3億7,895万円の黒字となりました。

決算報告(一般会計)

	令和4年度決算額	令和3年度決算額	対前年度増減額
歳入	254億4,444万円	264億3,801万円	-9億9,357万円
歳出	250億4,910万円	260億835万円	-9億5,925万円
形式収支	3億9,534万円	4億2,966万円	-3,432万円
繰越財源	1,639万円	1,253万円	386万円
実質収支	3億7,895万円	4億1,714万円	-3,819万円



- ・市税は個人市民税などの増加により、前年度と比べ約2億8千万円増加しました。
- ・地方交付税は経済対策などの事業に必要な経費として追加交付があり、前年度と比べ約7千万円増加しました。
- ・市債は投資的経費や国の地方財政対策により臨時財政対策債が減少したことから、前年度と比べ約7億5千万円減少しました。

- ・普通建設事業をはじめ市単独経費となる事業においては抑制を図りつつ、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を最大限に活用し、コロナ対策事業を実施しました。
- ・燃料費高騰による光熱費の増加やキャッシュレス決済ポイント還元事業などを実施した一方、国施策である給付金事業などが令和3年度より少なかったことから、歳出総額は前年度と比べ約9億6千万円減少しました。
- ・公債費は過去に借入した市債の償還が始まったことから、前年度と比べ約9千万円増加しました。

財政状況

市債残高(借金) 173億8,549万円

市民1人あたり 27万5,265円

基金残高(貯金) 30億5,806万円

市民1人あたり 4万8,418円

(主な基金) 財政調整基金 17億9,497万円
減債基金 6億8,424万円

指標名	令和4年度
実質赤字比率	-
連結実質赤字比率	-
実質公債費比率	2.5%
将来負担比率	45.4%
資金不足比率	-

※表・グラフ内の数字はそれぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。*市民1人あたりとは、令和5年3月31日現在の人口(63,159人)で割った金額です。*この決算は12月議会で認定を受けようとするものです。

令和4年度 特別会計決算

会計名	歳入	歳出	歳入－歳出
国民健康保険	76億4,471万円	69億8,737万円	6億5,734万円
後期高齢者医療	11億7,116万円	11億2,698万円	4,418万円
介護保険	64億8,579万円	64億200万円	8,379万円

国民健康保険特別会計

国民健康保険料や大阪府からの交付金などを主な財源として、医療給付や保健事業などを行っています。

令和4年度末の被保険者数は12,736人で、前年度と比較して640人(4.8%)減少しました。保険給付費は47億9,119万円で、医療技術の高度化や新型コロナウイルス感染症による受診控えからの回復などにより、前年度から1億1,433万円増加しています。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、運営主体である大阪府後期高齢者医療広域連合と市で事務分担をしています。

市では後期高齢者医療保険料や市の負担金を主な財源とし、各種申請や届出の受け付け、保険料の徴収などを行っています。

黒字収支となっていますが、これは令和5年度に広域連合へ納付する保険料などです。

令和4年度末被保険者は9,935人で、前年度と比較すると4.2%増加しています。

介護保険特別会計

令和4年度末の65歳以上の高齢者は18,047人で、前年度と比較して120人減少している中で、介護サービス需要が高まる75歳以上の後期高齢者は430人増加しています。

市が支払った費用である保険給付費は、56億8,042万円となりました。前年度と比較すると、5,024万円(0.9%)増加しています。保険給付費の財源は、介護保険料が50%、公費(国・府・市)50%となっています。高齢者の皆様一人ひとりが健康の保持増進に努めることで、給付費の増額を抑えられ、保険料の負担が減り、なによりも皆様がいままでいきいきと暮らせることにつながります。



令和4年度 企業会計決算

病院事業

令和4年度の入院患者は13,076人、1日当たり患者数は35.8人、病床利用率は36.6%でした。

また、外来患者数は42,885人で、1日当たり患者数は146.4人でした。

今年度につきましても、引き続き新型コロナウイルス感染症に対応しながら病院運営を行いました。

収益的収支 ※1		資本的収支 ※2	
収入	19億2,932万円	収入	5,982万円
支出	21億1,161万円	支出	1億2,520万円

(※1)収益的収支…通常の経営活動に伴う収支で、サービス提供に対する料金などの収入と、施設を維持管理する費用や人件費、借入金の支払利息などの支出
(※2)資本的収支…施設や設備の整備などに伴う収支で、国からの借入金や負担金などの収入と、工事費や機器などの購入費、借入金の元金償還金などの支出

公共下水道事業

令和4年度は令和3年度と比較して、下水道普及率は0.8%増加の84.3%、年間有収水量は28,286㎥減の4,814,746㎥でした。

建設改良事業では、下水道の新規整備や、下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場の改築更新を行いました。

今後も引き続き未普及地域の解消と、雨水ポンプ場の改築更新に取り組んでいきます。

収益的収支 ※1		資本的収支 ※2	
収入	20億6,899万円	収入	17億5,497万円
支出	19億3,108万円	支出	23億5,037万円